



わかやま ネットパトロール通信

vol.09 2025年12月発行



わかやま
ネットトラブル
相談窓口
ネットトラブルに関する相談や
資料ダウンロードができます
<https://wakayama-netpat.com/>



ネットリテラシー特集

情報モラルの土台となるインターネットの知識

クリックすることでドアが開く

—ウイルスが入ってきたり、情報が出ていく仕組みを知ろう—



インターネットを使っていると、「ここをクリック」「無料で見られる」「今すぐ確認」といった言葉を、毎日のように目にします。動画を見る、ゲームをする、友達とやりとりする。どれも当たり前の行動に見えますが、実はクリックするという行為は、ただの操作ではありません。

クリックとは、「ドアを開ける」ことです。そのドアの向こう側に、誰がいるのか、何が置いてあるのかを知らないまま開けてしまうと、思わぬトラブルが起こることがあります。



クリックすると、何が起こるの？

私たちがリンクをクリックした瞬間、スマホやパソコンは相手のサーバーと通信を始めます。そのとき、次のようなことが同時に起こる可能性があります。

ウイルスや不正なプログラムが入り込む

端末の情報（機種、IPアドレス、位置情報など）が相手に伝わる

「興味」「弱み」「行動のクセ」が記録される

ログイン情報やパスワードを入力させられる

多くの場合、自分では何も渡したつもりがなくても、情報は動いています。「名前も住所も入力していないから大丈夫」という考えは、残念ながら十分ではありません。



情報は、勝手に出ていくこともある

たとえば、こんな行動を想像してみてください。

無料診断や性格テストを試す



「お金がもらえる」「簡単に稼げる」という投稿を見る



知らない人から届いた
DMのリンクを開く



ゲームやアプリに気軽に登録する

これらの多くは、情報を集めるための入口になっています。

入力した内容だけでなく、「どんな言葉に反応したか」「どの投稿を見たか」といった行動そのものが、データとして蓄積されます。つまり、クリックやフォローは「私はこういうことに興味があります」「私は今、こういう状況です」と自分を紹介しているのと同じなのです。



悪い人は「心のスキ」を見ている

ウィルスや詐欺は、いきなり襲ってくるものではありません。多くの場合、相手はとても普通で、親切で、常識的に見えます。

- 困っている気持ちに寄り添う
 - 「あなただけに」と特別感を出す
 - 急がせて考える時間を奪う
- こうしたやり方で、「ドアを開ける理由」を作ってきます。だからこそ、「怪しい見た目かどうか」だけでは判断できません。

インターネットは「外」だという意識

スマホは自分の部屋にあり、手元にあります。でも、インターネットにつながった瞬間、そこは外の世界です。家のドアを開けるとき、知らない人が立っていたら警戒しますよね。インターネットも同じです。

「誰が相手か分からぬドア」を、無意識に開けていないかを考えることが大切です。



自分を守るためにできること

すべてを怖がる必要はありません。大切なのは、考えるクセを持つことです。

このリンクは誰が出している？

今、なぜクリックしたくなっている？

もしリアルで同じことを言われたらどう感じる？

これは本当に”今すぐ”必要？



一度立ち止まるだけで、多くのトラブルは防げます。
クリックは便利な行動です。でも同時に、**ドアを開ける行為**もあります。

開ける前に考える

考えてから使う

それが、インターネットと安全につきあうための、いちばん大切な力です。

ネットリテラシー 今月のポイント



- クリックは「見知らぬドアを開ける」行為と同じ
- 自分の情報や興味、状況は「知らないうち」に出ていってしまう
- 自分を守る最強の武器は「立ち止まって考える力」

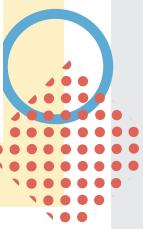
心理

公認心理師・臨床心理士 浅井 育子先生のコーナーは今月はお休みします。



先生方や保護者、支援機関からの情報提供・相談も受け付けます。

わかやまネットトラブル相談窓口では、先生方や保護者の方からの相談も受け付けています。問題のある投稿を見つけた、この問題に対しての対処方法を教えて欲しいなど、インターネットのトラブルに関連する様々な解決をお手伝いします。webサイト右下のチャットからアクセスして、ご相談をお寄せください。



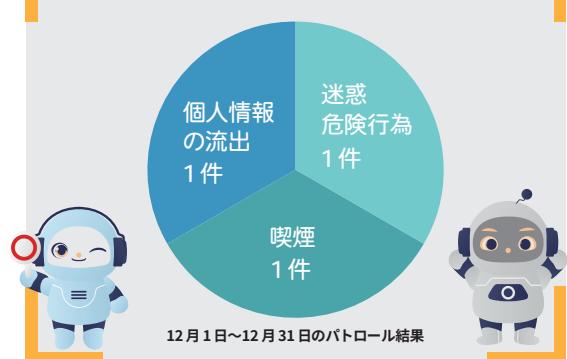
2025年12月のネットパトロールで発見された問題投稿は3件。そのうち迷惑・危険行為が1件、喫煙が1件、個人情報の流出が1件発見されました。今月は、InstagramだけでなくX(旧Twitter)のパトロールを実施しました。X(旧Twitter)からは、和歌山県の学生による問題投稿は発見されませんでした。しかし、薬物の販売をほのめかすものや、闇バイトを募集するアカウントなどが見つかっております。Instagramにも似たような内容の投稿が発見されています。

分析 その“甘い言葉”、本当に大丈夫？ SNS上の怪しいアカウントに注意して！

「簡単に稼げる」「高収入」「即日現金」——SNS上には、魅力的な甘い言葉

で人を誘う情報があふれています。しかし、その中には犯罪につながるものが多く潜んでいます。一度関わると、個人情報を握られ脅されたり、抜け出せなくなったりする危険もあります。知らなかつたでは済まされず、重い罪に問われることもあります。今月は発見された怪しいアカウントについて紹介します。見つけた場合は関わらないよう注意してください。

和歌山県内の青少年の問題投稿



1 薬物販売系

「合法」「依存性なし」「安くて安心」など根拠のない文言を並べており、隠語などを使い一見薬物を売っているように見えないアカウントも発見されています。

2 闇バイト系

「未経験でも高収入」「捕まらない・安全」「荷物を受け取るだけ！」など簡単に稼げることをアピールしているものが多く見つかっています。



3 フォロワー獲得を目的としたアカウント



「お金配ります」「豪華プレゼント」といった言葉とともに、大金の写真や大量のプレゼントの写真を投稿しているものが多数みつかっています。また、こちらの意思とは関係なくフォローしてくるものが多いため、安易にフォローしないよう注意してください。

4 写真・動画・物品の販売アカウント

個人で販売しているアカウントもあります。一見問題がないように見えますが、お金を払ったのに物が届かなかったり、物を送ったのにお金が振り込まれないといった金銭トラブルにつながる可能性があります。



出張情報モラル講座

身元が特定されやすい投稿の危険性を理解する

12月の講座は小学校・中学校・支援学校・盲学校と幅広く計6件の講座を実施しました。講座をさせていただいた学校の先生より、「小学生が制服を着て『今〇〇で△△しています』のような動画を投稿しており、閲覧した他県の方から学校に連絡があったため、保護者も交えて話をして削除させた。」というケースをお聞きしました。

身元のわかるような画像や動画を安易に投稿することの危険性について、引き続きしっかり伝えていきます。

上記のような、こどもたちにとって身近な問題を取り入れ、また、「投稿ボタンを押す」等、具体的で伝わりやすい言葉で講義を進めていきます。



講座日	学校名	講座内容	対象生徒の学年	人数
12/3	南紀はまゆう支援学校	犯罪やトラブルの防止	高等部1～3年生	65名 (教職員10名)
12/9	箕島小学校	情報モラル	小学4～6年生	120名 (教職員7名)
12/15	上富田中学校	犯罪やトラブルの防止	中学1～3年生	391名
12/17	上南部小学校	犯罪やトラブルの防止	小学5～6年生	69名 (教職員4名)
12/18	和歌山盲学校	情報モラル	高等部 普通科 理療科 1～3年生	13名 (教職員15名)
12/22	川辺西小学校	犯罪やトラブルの防止	小学5～6年生	57名 (教職員5名)

小学校・中学校・高校・支援学校からの
お申し込みお待ちしております。



ネットトラブル相談窓口



24時間、チャットbotで相談 いただけます！

ネットトラブルの相談窓口を開設しています。右下のリラちゃんのボタンからチャットを行うことができます。24時間、チャットbotが自動で対応するため、気軽に相談ができます。平日 15:00-19:00には希望すれば相談員とお話しすることも可能です。こどもたちからの相談はもちろん、先生方・保護者・青少年の支援機関からの情報提供や相談も受け付けています。

インターネット上のこんなことを相談いただけます！

- アカウントを乗っ取られた
- 無断投稿を削除してほしい
- 暴力的な表現の投稿を見つけた
- 危険な行為の投稿を見つけたなど

青少年

保護者

学校関係者

支援機関

わかやま ネットパトロール通信

令和7年度「青少年ネット安全・安心のための環境整備事業実施業務」
企画・制作：TETAU 事業協同組合

お問い合わせ

TETAU 事業協同組合

050-5536-9139 (平日 10:00～16:00)
netpat@tetau.jp (担当：森脇・信貴・中村)

和歌山県 共生社会推進部 こども家庭局 こども支援課
TEL : 073-441-2502 FAX : 073-441-2491
メール : e1104001@pref.wakayama.lg.jp